

令和2年度 さいたま市立桜木中学校 自己評価書

校長 五十嵐 圭一

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「よい授業」4つの因子に基づく授業を展開し、学ぶ楽しさや分かる授業、学校課題研究等をより一層推進し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- (2) 教育相談週間や日常の相談活動、教職員の連携による組織的な対応を推進し、教育相談体制のさらなる充実を図る。生徒との信頼関係を確立し、生徒の声に耳を傾け、不安や悩みの早期発見、未然防止に努める。また「学校いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめの未然防止、早期発見、早期支援、改善・回復、再発防止に努める。
- (3) 家庭との協力体制づくりと関係機関との緊密な連携を基盤とし、生徒一人ひとりに応じた適切な指導計画の作成と指導体制の充実を図る。
- (4) 校務分掌や主任組織を組織的かつ適切に機能させ、学校業務全体を新たな視点で見直し、学校における働き方改革を推進する。さらに校務支援システムや校務用PCを有効活用する中で、能率化、省力化や役割分担の均等化をより一層推進する。

2 評価結果について

- (1) 評価項目「授業内容を分かるように指導してくれている。」について、肯定的に回答した生徒の割合は、昨年度は95%、今年度は96%であり、授業改善を着実に進められているところである。生徒の学力は、昨年度の市学習状況調査では、国語、数学ともに市の平均を上回っており、おおむね良好な状態にある。
- (2) 「生徒の情報モラル」については、課題が残っている。
- (3) 特別支援教育については、教職員の評価は肯定的なものが多かったが、配慮が必要な生徒への対応や組織的な取組には検討の余地がある。
- (4) 組織運営「校務分掌の仕事量や人員の配置」については、肯定的な意見の割合が、昨年度は88%、今年度は100%であり、改善が図られている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 自分で考えたり、友達同士で話し合ったりするなど、生徒の主体的・能動的・協働的な活動を取り入れた授業をより一層推進する。
- (2) ICT機器活用の研修を設定し、学習指導の充実を目指す。
- (3) テスト前、テスト前以外での適切な時期にも、補習を継続的に実施する。
- (4) 講演会や授業等で情報モラル（インターネット、携帯電話）の推進をより一層図る。
- (5) 今後も担任一人が抱えることなく、チームであたっていく指導体制をより一層高める。
- (6) 生徒の実態に応じた適切な対応がとれるように、研修会を実施し、指導力の向上を目指す。
- (7) 校務用PCを有効活用し、能率化と省力化をより一層高めていく。
- (8) 企画委員会、学年会、分掌会等で、役割分担の均等化をより一層進めていく。
- (9) 分掌内で、役割分担をより一層具体化する。内容や活動も見直しや精選を図る。